

参照・引用文献

- 船越徹. (2013). 妊娠 34 週まで早産治療を延長できた場合でも治療を継続する. 周産期医学, 43(8), 993-996.
- Heaman, M., & Gupton, A. (1998). Perceptions of bed rest by women with high-risk pregnancies : *A comparison between home and hospital*. Birth (Berkeley, Calif), 25(4), 252-258.
- Iams, J. D., Goldenberg, R. L., Meis, P. J., Mercer, B. M., Moawad, A., Das, A., . . . Roberts, J. M. (1966). *The Length of the Cervix and the Risk of Spontaneous Premature Delivery*. N Engl J Med. doi:10.1056/NEJM199602293340904
- 萱間真美. (2007). 質的研究実践ノート. 医学書院.
- 小林隆夫. (2006). 妊娠と血栓. 成人と生活習慣病, 36(2), 165-170.
- 厚生労働省. (2017). 平成 29 年我が国の人口動態(平成 27 年までの動向). 参照日: 2017 年 7 月 21 日, 参照先: <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/81-1a2.pdf>
- 久保隆彦, 青木宏明. (2012). 我が国の早産の現状と問題点. 産婦人科の実際, 61(4), 537-540.
- 栗田麻美. (2015). 地域の社会資源の活用だけでなく”強化”をも意図した退院調整を. 看護, 67(15), 86-89.
- 草野修輔. (2004). 高齢者のリハビリテーション. 理学療法科学, 19(3), 175-181.
- Maloni, J., Chance, B., & Zhang, C. (1993). *Physical and psychological side effect of antepartum hospital bed rest*. Nursing Research, 42(4), 197-203.
- 松田義雄. (2006). わが国の大規模 case-control study の成績からみた早産の予防戦略. 産婦人科の実際, 55(1), 17-22.
- 松浦志保, 清水嘉子, 赤羽洋子, 宮澤美知留, 松原美和. (2012). Bed Rest 治療中のハイリスク妊婦に行うストレッチングの自律神経活動および気分への影響. 長野県看護大学紀要, 14, 1-11.
- 三浦広志. (2012). 切迫流・早産. ペリネイタルケア, 31(12), 10-14.
- 中村康香. (2012). 切迫早産で入院中の妊婦に必要な看護支援とは. 助産雑誌, 66(3), 222-228.
- NICE. (2015). 参照先: <https://www.nice.org.uk/guidance/ng25>

- 日本産婦人科学会(編). (2008). 産婦人科用語集・用語解説集 (改訂第2版).
- 太田創, 大場智洋, 大槻克文, 徳中真由美. (2014). 切迫早産で安静の指示が出るのはなぜですか? ペリネイタルケア, 33(3), 25-29.
- 佐藤加織, 白井史子, 橋野恭子. (2005). 切迫早産妊婦の分娩に対する意識の変化. 日本看護学会論文集 母性看護(36), 53-55.
- Sosa, C., Althabe, F., Belizán, J. M., & Bergel, E. (2015). *Bed rest in singleton pregnancies for preventing preterm birth*. Cochrane Database of Systematic Reviews. doi:10.1002/14651858.CD003581.pub2
- 立花桂, 鈴木葉子, 鈴木明子, 西山美穂, 立原美代子, 前山直美. (2007). 切迫早産妊婦のストレスコーピングに対する看護介入についての研究. 日本看護学会論文集 母性看護(38), 127-129.
- 蓼沼由紀子, 今関節子. (2005). 切迫早産により入院中の妊婦の予期的不安. 母子衛生, 46(2), 267-274.
- 田中幹二. (2010). 切迫早産の成因・病態. 産婦人科の実際, 59(6), 861-868.
- 田中幹二. (2016). 切迫早産. 周産期医学, 46(増刊号), 220-223.
- 谷垣伸治, 橋場剛士, 佐藤友美, 齋藤將也, 黒田恵子, 宮崎典子, 岩下光利. (2013). 妊娠34週まで切迫早産治療を延長できた場合、治療を中止する. 周産期医学, 43(8), 997-1001.
- 戸村ひかり, 永田智子, 竹内文乃, 清水準一. (2017). 日本の病院における退院支援看護師の実践状況—2010年と2014年の全国調査の結果を比較して—. 日本看護科学会誌, 37, 150-160.
- 臼井淳美, 田尻后子, 櫛田恵津子, 上原和代, 川崎佳代子. (2008). 切迫早産で入院している妊婦の心理構造. 日本母子看護学会誌, 2(1), 27-36.
- 山本真樹子, 高本いく子, 小松明日香, 森圭子, 江島仁子. (2002). 安静臥床切迫早産妊婦のために考案した体操の心理的効果POM・STAIを用いての分析. 母性衛生, 43(1), 170-177.
- 山崎まゆみ. (2006). 切迫早産患者への運動療法導入による身体的および精神的効果. 日本看護学会誌, 16(1), 106-115.
- 米田哲. (2014). 妊娠後半期における妊娠維持機構とその破綻/早産の病態解明と新たな治療戦略. 日本産婦人科学会雑誌, 66(10), 2512-2521.